

小墾田宮跡推定地(奈良県高市郡明日香村)

おはりだのみや

正面の小さな案内板に右手が古宮遺跡(小墾田宮推定地)と記されている



駐車場を右手奥へ進むと説明板があった/前方やや左手のこんもりとした高まりに木が立っているところは「古宮土壇」というらしい



ふるみや

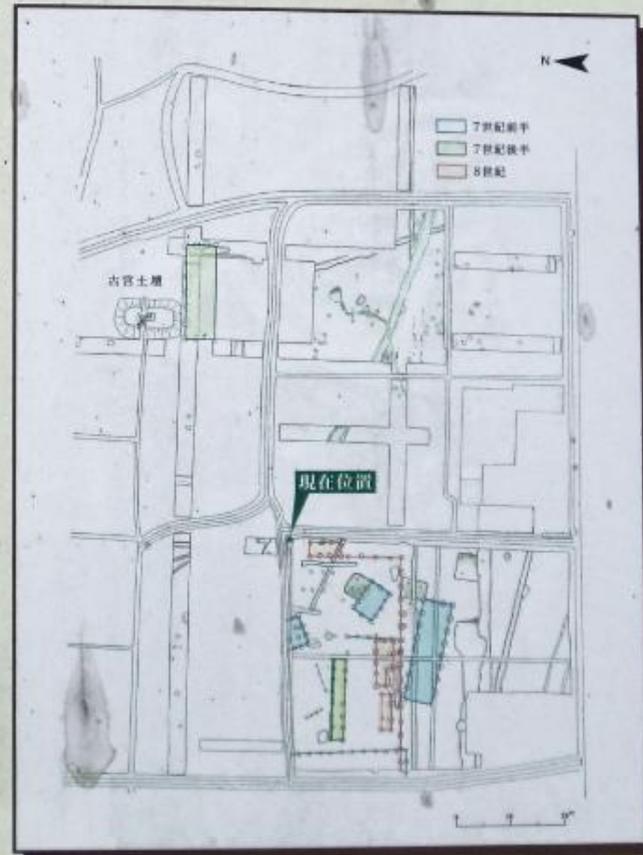
おはりだのみや

古宮遺跡(小墾田宮推定地)

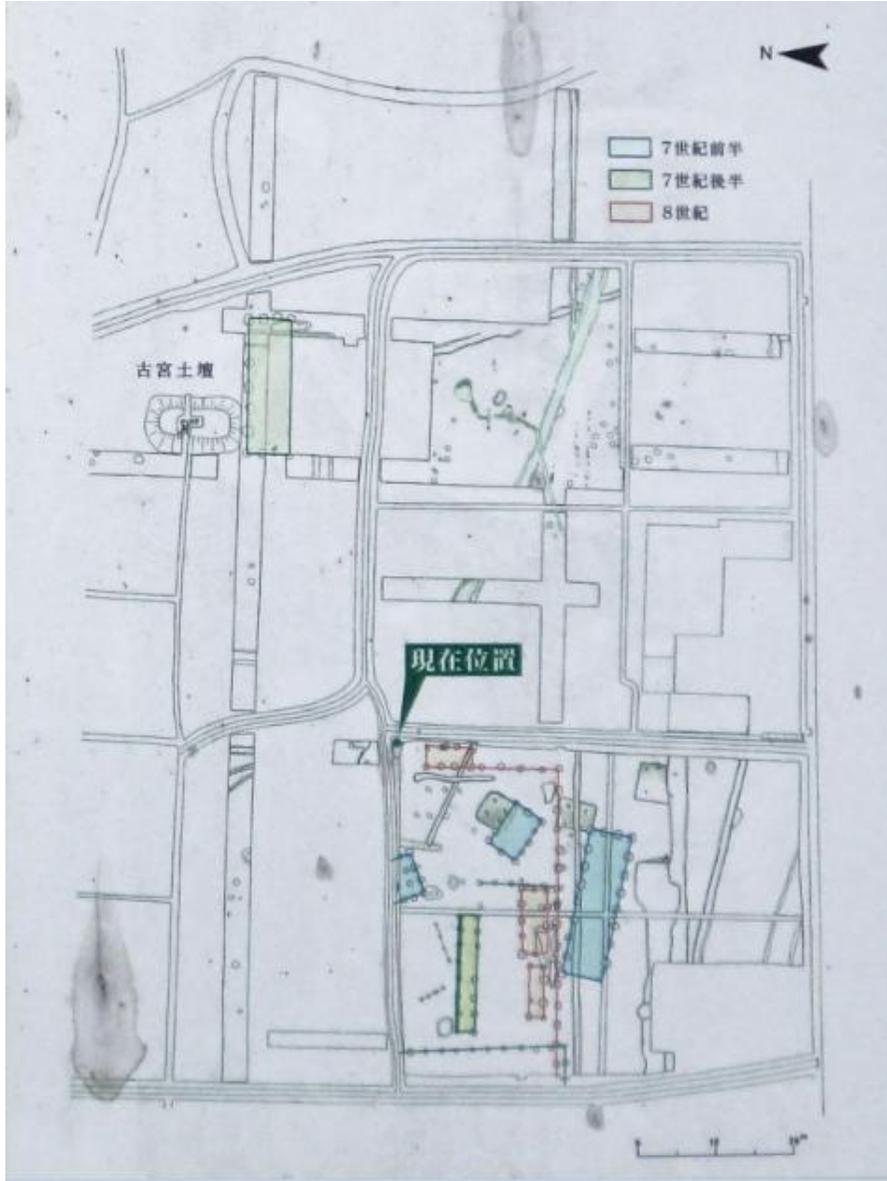
Furumiya Ruins (Oharida-no-Miya Palace Ruins)

古宮遺跡はこれまで推古天皇の小墾田宮と推定されてきた遺跡である。明治時代には金銅製四環壺が出土したと伝えられているが、現在は古宮土壌だけが残されている。

『日本書紀』・『続日本紀』によると小墾田宮は推古天皇にはじまり、離宮や兵庫(武器庫)として奈良時代まで存続していたことがわかっている。昭和45年(1970)に実施された発掘調査では、土壌の南側で7世紀前半の小池と石敷が見つかり、推古天皇の時代の庭園跡であることが判明した。また、現在は駐車場になっている場所でも7世紀前半から後半にかけての建物群が見つかり、広い範囲に遺跡が広がることも確認されている。しかし、小墾田宮については、昭和62(1987)年に、飛鳥川を隔てた東側にある雷丘東方遺跡で、奈良時代の井戸から「小治田宮」と墨書された土器が多数出土したことから、少なくとも奈良～平安時代の小治田宮については雷丘東方遺跡であることが判明した。これらの成果から、推古天皇の小墾田宮も雷丘周辺にあったと考えられるようになった。よって古宮遺跡は蘇我氏に関わる庭園とする説が有力となっている。



古宮土壇



西方向を見る/この駐車場になっている部分からは7世紀前半から後半にかけての建築群跡が発掘されたという



少し東側に移動して北方向に古宮土壇を見る/土壇の南側(手前)で7世紀前半の小池と石敷(庭園跡)が発掘されているという



アップで見る



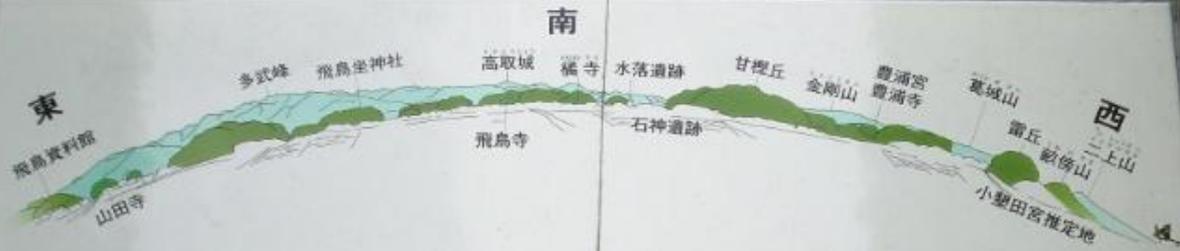
西方向を見る/左手の生け垣があるところが先ほどの駐車場/前方に見える山は畝傍山



さて、ここは雷丘(いかずちのおか)から飛鳥資料館へ向かう山田道にある広場







この広場から南が飛鳥の中心にあたり、飛鳥時代(592-710年)の宮殿や寺がたくさんつくられました。蘇我氏の氏寺である飛鳥寺の建設が始まったのは588年、592年には推古天皇が豊浦宮(603年)で位につき飛鳥時代の幕があきました。雷丘の東は推古天皇の小墾田宮(603-628年)の推定地のひとつです。蘇我氏の邸宅があったと伝えられる甘樫丘の頂上(海拔148m)からは、飛鳥と藤原京(694-710年)を見わたすことができます。飛鳥寺の西から北にかけては斉明朝(635-661年)の迎賓館跡ではないかとされる石神遺跡や、中大兄皇子が660年につくった漏刻台(水時計)があった水落遺跡があります。飛鳥寺の南には、舒明朝の飛鳥岡本宮(630-636年)や、皇極朝の飛鳥板蓋宮(643-645年)、斉明朝の後飛鳥岡本宮(656-667年)、天武朝の飛鳥浄御原宮(672-694年)がつけられたと考えられています。飛鳥寺の東には、飛鳥坐神社の社叢があり、その左手には藤原鎌足をまつる談山神社がある多武峰(御殿巒山・海拔607m)がそびえています。その山麓には、蘇我倉山田石川麻呂が641年に建て始めた山田寺があります。

なお飛鳥資料館には、発掘調査でみつかった遺物を中心に、飛鳥時代の歴史をわかりやすく解説した展示があります。



↑ 飛鳥資料館

↑ 雷丘

飛鳥寺のある南方向を見たところ



雷丘(前方右手の木々の辺り)のある西方向を見たところ/背後の山は畝傍山



アップで見る/前方の木々の辺りが雷丘/その手前の右手は「小治田宮」という墨書土器が多数出土した「雷丘東方遺跡」で、ここが小墾田宮跡の有力候補地



この広場にあった飛鳥周辺の石造物案内地図



飛鳥資料館にあった「亀石」のレプリカ



飛鳥資料館にあった「石人像」のレプリカ



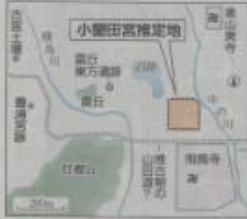
飛鳥資料館にあった「須彌山石」のレプリカ



飛鳥資料館にあった「猿石」のレプリカ



女帝・推古天皇の宮殿どこに



飛鳥時代の女帝・推古天皇(544〜605年)の小墾田宮(小墾田宮)は、どこにあったのか。即位十一年の制定や蘇我十七家の発掘、遺跡、使館などといった様々な重要政策を打ち出した宮殿なのに、場所は誰説も特定に至っていない。奈良明日香村教委文化財課の相原幸之・課長補佐は、近年の発掘調査成果を踏まえ、日本



田んぼや畑が広がる小墾田宮の推定地(奈良明日香村で)

「小墾田宮」飛鳥寺の北に隣接？

最古の本格寺院・飛鳥寺の北側隣接地にあったという新説を唱え、「歴史考古学研究所論集第11巻」(八木書店)に論文が掲載された。502年に開創された飛鳥寺で即位した推古天皇は603年に小墾田宮に移り、没するまでの25年間、政務を執った。奈良時代の760年には、淳仁天皇

が訪れており、この頃は存続していたことがわかる。開創前は、甘樫丘北西にある飛鳥寺跡下層から見つかった遺構とされており、飛鳥板蓋宮や飛鳥浄御原宮などは、飛鳥京跡に重複して営まれたことがわかっている。飛鳥時代、現在の明日香村で営まれた宮殿のうち場所が特定されていないのは小墾田宮だけだ。1970年代、豊浦宮跡の北側にある高まり「古宮土壇」付近を掘削したところ、7世紀前半の庭園の一部などが見つかり、有力候補地とされた。だが、大規模な建築物が確認されないことなどが課題だった。87年には、飛鳥川を隔てた「丘東方遺跡の井戸跡から「小墾田宮」と書かれた奈良時代の墨書土簡十数点が出土。だが、時代が寛

明日香村教委職員が新説

なるうえ大規模な遺構はなく、広さも十分ではなかった。これに対し、相原課長補佐は、飛鳥寺北側に古代の幹線道路・山田道が通り、道を挟んだ隣接地にあったと推定。その根拠として、約1000坪四方の大規模な宮殿が建てられる広さ(奥厚さ20〜30坪)の造成地が東に広がり、7世紀前半に瓦葺きの建築物があった遺跡を発掘で確認(「日本書紀」に小墾田宮の南庭に建てられたと記される「葦原山」とみられる石造物「須弥山石」が推定地南西隅で出土した)など、新説を挙げている。和作家・京都教育大名誉教授(古代史)は、「飛鳥時代の研究で、小墾田宮の位置の特定は最も重要。豊浦宮の近接地地帯にあって広い場所を占め、山田道と密接な関係にあるのは間違いない。今後、発掘調査で具体的な遺構が見つかることを期待したい」と話している。(大阪本社編集委員 関口和哉)

文化
歴史

「儀式の扱いがしない行列、被葬者は女性だったのでは」と語る。



「養生堀りの命」始報。今回の発掘が、飛鳥寺北側の遺跡を明らかにした。

「小墾田宮」飛鳥寺の北

飛鳥時代の女帝・推古天皇（554～628年）の小墾田宮（小治田宮）は、どこにあったのか。冠位十二階の制定や憲法十七条の発布、遣隋使派遣といった様々な重要政策を打ち出した宮殿なのに、場所は諸説あって特定に至っていない。

奈良県明日香村教委文化財課の相原嘉之・課長補佐は、近年の発掘調査成果を踏まえ、日本

最古の本格寺院・飛鳥寺の北側隣接地にあったという新説を唱え、『檀原考古学研究所論集第十六』（八木書店）に論文が掲載された。

592年に豊浦宮（明日香村）で即位した推古天皇は603年に小墾田宮に移り、没するまでの25年間、政務を執った。奈良時代の760年には、淳仁天皇

田んぼや畑が広がる小墾田宮の推定地（奈良県明日香村で）



に隣接？

が訪れており、この頃は存続していたことがわかる。

豊浦宮は、甘樫丘北西にある豊浦寺跡下層から見つかった遺構とされており、飛鳥板蓋宮や飛鳥浄御原宮などは、飛鳥京跡に重複して営まれたことがわかっている。飛鳥時代、現在の明日香村で営まれた宮殿のうち場所が特定されていないのは小墾田宮だけだ。

1970年代、豊浦宮跡の北側にある高まり「古宮土壇」付近を発掘したところ、7世紀前半の庭園の一部などが見つかり、有力候補地とされた。だが、大規模な建物跡が確認されないことなどが課題だった。87年には、飛鳥川を隔てた雷丘東方遺跡の井戸跡から「小治田宮」と書かれた奈良時代の墨書土器十数点が出土。だが、時代が異

明日香村教委職員が新説

なるうえ大規模な遺構はなく、広さも十分ではなかった。

これに対し、相原課長補佐は、飛鳥寺北側に古代の幹線道路・山田道が通り、道を挟んだ隣接地にあったと推定。その根拠として①約100m四方の大規模な宮殿が建てられる広さ②厚さ20〜30cmの造成地が東に広がり、7世紀前半に瓦ぶきの建物があった痕跡を発掘で確認③「日本書紀」に小墾田宮の南庭に建てられたと記される「須弥山」とみられる石造物「須弥山石」が推定地南西隅で出土したこと——などを挙げている。

和田萃・京都教育大名誉教授（古代史）は、「飛鳥時代の研究で、小墾田宮の位置の特定は最も重要。豊浦宮の近接地域にあって広い場所を占め、山田道と密接な関係にあるのは間違いない。今後、発掘調査で具体的な遺構が見つかることを期待したい」と話している。

（大阪本社編集委員 関口和哉）

参考ホームページ

<http://www.bell.jp/pancho/travel/taisi-siseki/miyadokoro/owaridanomiya.htm>

http://www.bell.jp/pancho/travel/asuka-ji/owarida_no_miyaato.htm

<http://www.asuka-tobira.com/miya/tennoutomiya.htm>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B0%8F%E5%A2%BE%E7%94%B0%E5%AE%AE>

<http://inoues.net/club3/asuka2009b.html>

<http://blog.goo.ne.jp/fineblue7966/e/e475969c80aa5648410096ce061de136>

赤丸/古宮遺跡

青丸/雷丘東方遺跡

